



子育てコラム

ありのままがいい

山武市立成東小学校 心の教室相談員 伊藤 弘子



私の子どもが小さい頃に通っていた、ある習い事でのことです。

若い母親の大きな声がホール内に響いていました。

「早く行けよ。バカ。行けよ!」と、3歳くらいの女の子に怒鳴っています。何が何でも行かせようと必死な様子でしたが、女の子は行きたくないと言っていました。抵抗して泣きわめいています。そのうち女の子がよろける程強く頭をひっぱたき始めたので、その場にいた私は思わず「そんなに怒らなくてもいいんじゃないですか?」と静かに声をかけました。けれども、興奮していた母親はキッと私をにらみ、泣きわめく子を無理矢理別の場に連れて行きました。見ていたまわりの方々も何もできません。私も

その場に立ち止まったままです。

このような場面に遭遇した時、みなさんはどうされますか?放っておいたほうが良かったのでしょうか?未だにわかりませんが、その女の子に対して何もしてあげられなかったという無念と母親の鬼のような形相は強烈に私の頭の中に残っています。

子どもは自分の思い通りにはならないものです。どの親も皆さんそう思われていることだと思います。私自身もそうでした。つまり戸惑いながら親や親戚、まわりの方々に助けられながら、また友達ともお互い相談したりアドバイスをし合ったりしながら子育てをしてきました。

理想どおりに育ってくれたらどんなに楽でしょう。子育てとは、こんなハズではなかったという思いと日々変化していく子どもの成長にどう対応していいのか?という思いが、その年齢なりにどの場面においてもつきまとうてきます。

若い世代の方々は核家族、少子化社会に育ち、経験もない中情報誌の氾濫で何十人もの『スポック博士』に取り巻かれ、悩みは余計に深まっていく...のも現実です。育児書どおりにはいくわけがないし育児に決まりもないのです。自分のできる範囲で無理せず、背伸びせず失敗を繰り返しながらいいから、自分なりの創造的な子育てをしていくことで子どもも親も成長するのだと思います。

完璧な親になる必要はなく、ありのままでもよく手

を抜いたほうが人間味があって、子ども自身にも考える力が育ち、かえってのびのびと過ごせるようです。気になる点があっても欠点ではなく個性だと考え、広い目で子どもと構え、"それでいいんだよ"と笑顔で受け止めてあげられるような気持ちでいることが大切だと思います。

子どもを叱る時、時と場合にもよりますが、まずは感情的にならずにひと呼吸おいてみてください。子どもと視線を合わせ、どうしてそうなったのか、まず考えてから子どもの話を聴き、目を見て自分の思いを納得できるように言い聞かせられたらいいですね。

鬼の形相はまわりから見ても怖いけれど怒られている子どもはもっと怖いのです。で

子育て相談受付中

子育てで悩んだ時、困った時、不安になった時など子育てに関することならどんなことでも気軽に相談ください。

相談電話 ☎(80)1456

(教育委員会生涯学習課)

受付時間

月・水・木・金曜日

午前9時~午後4時半

(水曜の午後・祝祭日を除く)

